

第68回国際原子力機関（IAEA）総会
一般討論演説

議長、

日本政府を代表して、議長就任をお祝い申し上げます。また、クック諸島とソマリアのIAEA新規加盟を歓迎します。

【IAEAの役割】

国際情勢の変動や科学技術の進歩に伴い原子力が再び大きな注目を集める中で、IAEAの役割はますます重要になっています。このような中で、日本は以下の3点を重視します。

【原子力の平和的利用にかかる日本の取組】

第一に、NPTの3本柱の1つであり、SDGs達成にも資する原子力の平和的利用への貢献です。

（発電分野）

日本は、エネルギー安全保障や脱炭素化の観点から原子力エネルギーを重視しています。安全性を最優先に原子力を持続的に活用する方針のもと、原子力発電所の再稼働、運転期間の延長、次世代革新炉の研究開発に取り組むとともに、国際連携を通じたサプライチェーンの強化等を進めています。

（非発電分野）

また、原子力技術は、医療・農業・環境等幅広い分野に応用可能な重要な技術です。この観点から、日本は医療用ラジオアイソトープの国産化に取り組んでいます。

同時に、国際社会における平和的利用促進に向けて、日本は、平和的利用イニシアティブへの拠出も含め、Rays of Hope、Atoms4Foodといったグロッシー事務局長のイニシアティブを、力強く支援しています。また、本年で25周年を迎えるアジア原子力協力フォーラムの枠組みを含め、国際協力を推進しています。

（フュージョンエネルギー）

日本は、昨年4月に我が国初となる国家戦略を策定し、新たに「フュージョンエネルギー産業協議会（J-Fusion）」を設立するなど、次世代エネルギーであるフュージョンエネルギーの早期実現にも取り組んでいます。今後、同志国と連携し、安全確保にかかる基本的な考え方を今年度中に策定し、IAEAを含む国際社

会との連携を強化します。

【平和的利用の裏付けとしての3Sの重要性】

第2に、最高水準の3S、すなわち、原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の確保です。

（原子力安全）

日本は、東京電力福島第一原子力発電所事故の経験や廃炉に向けて培った知見を国内や近隣諸国を含めた国際社会に共有するとともに、原子力規制の改善に向けた国際社会の取組にも貢献しております。

ALPS処理水については、これまでに8回の海洋放出を行っています。海洋放出は、IAEAの関与の下で行われ、近隣諸国を含む各国の分析機関や国際専門家も参加するモニタリングやレビューにより、その安全性を裏付ける実績が積み重ねられています。ALPSにより浄化された後、さらに海水により十分に希釈された後、放出されるため、人や環境に影響を及ぼすことはありません。したがって、この日本から放出される水を汚染水と表現することは適切ではありません。廃炉に向けた取組も進んでおり、最難関である燃料デブリ取り出しを含む新たな段階へと進んでいきます。

IAEAは、その憲章上、原子力分野において国際的な安全基準を策定し、適用する権限を有しており、その権威や独立性を守ることが重要です。

日本は、IAEAの独立した、科学的根拠に基づく、長期にわたるコミットメントに対して感謝及び敬意を表するとともに、引き続き、内外のステークホルダー、とりわけアジア太平洋及びそれを越えた地域の関係者への関与を継続・強化し、国際社会に対して透明性の高い説明を続けていきます。

（核セキュリティ）

最高水準の核セキュリティの確保に向けて、日本は、核テロ防止条約及び核物質防護条約とその改正の普遍化を支持します。国内では、国際社会の脅威となり得る核物質の最小化に取り組んでおり、JAEAから全ての高濃縮ウラン（HEU）等の撤去が完了したほか、京都大学や近畿大学の研究炉からのHEUの撤去や低濃縮化による教育研究活動継続の取組を着実に進めています。

本年迎えた国際核物質防護諮問サービス（IPPAS）ミッションからの日本の核セキュリティ体制は強固であるとの評価も踏まえ、引き続き核セキュリティ対策の向上に取り組みます。

(保障措置)

核不拡散の中核的手段である IAEA 保障措置の強化・効率化に係る IAEA の取組を強く支持し、この観点から、包括的保障措置協定 (CSA)、追加議定書 (AP) 及び改訂少量議定書 (SQP) の普遍化を推進します。

これら (3S) を達成するためには、国際的な人材育成の取組が不可欠です。日本は、IAEA 協働センターに指定されている JAEA 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター (ISCN) において、核不拡散・核セキュリティ分野での人材育成支援及び研究開発に長年取り組んでいます。本年、ISCN はトレーニング施設を拡充したほか、IAEA 核セキュリティ教育ネットワークに新規加盟しました。日本はこのような貢献を更に強化していきます。

【地域の不拡散課題】

第3に、日本が北朝鮮等の地域における不拡散課題やイラン核問題の解決、ウクライナの原子力安全・核セキュリティ確保を重視していることを強調します。厳しい国際情勢の中での IAEA の献身的な取組を強く支持するとともに、引き続き積極的に議論に貢献します。

特に、北朝鮮による全ての大量破壊兵器、あらゆる射程の弾道ミサイル及び関連する計画の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄を強く求めるとともに、全ての国が関連する国連安保理決議を完全に履行する重要性を改めて強調します。

【結語】

日本は IAEA の責任ある加盟国かつ指定理事国として、グロッシー事務局長及び IAEA 事務局のプロフェッショナルな取組に対し多大なる感謝の意と IAEA への最大限の支援の継続を改めて表明し、結びとさせていただきます。ありがとうございました。